



国際交流バスツアー 2022.11.27 神戸森林植物園

平和な社会を国際交流で 吉野川市国際交流協会



International Exchange builds a Peaceful Society

吉野川市国際交流協会は、2022年度に設立30周年を迎えました。1992年8月にその前身である鴨島町国際交流協会が設立され、2004年10月の4ヶ町村合併により吉野川市国際交流協会に移行し現在にいたりました。

30周年記念となるイベントや事業を紹介します。

- ① 国際交流協会の日本語教室の活動が、徳島県のユニバーサルデザインによるまちづくりの推進に顕著な功績があると認められ、「とくしまユニバーサルデザインによるまちづくり賞」を2022年3月に受賞。
- ② 「市長としゃべらんで」と題する企画で吉野川市の原井市長とYIAの萩森会長が対談。その様子は、吉野川市の「広報よしのがわ」2022年6月号に掲載されました。
- ③ 設立30周年を記念して「吉野川市国際交流協会30年の歩み・パネル展」を7月28日から8月3日まで、吉野川市文化研修センターのロビーで開催。
- ④ 「多文化共生交流会」を2023年2月開催、地域に在住するベトナム、インドネシア、中国などの出身者が各国の概要を紹介、歌や踊りも披露し市民や会員と交流しました。2022年もコロナの影響がありましたが、会員の皆様のご

協力とご支援を得てなんとか活動を継続することができました。5月の総会是对面で開催しました。6月は「書道ワークショップ」に新規に俳句を取り入れた「俳句・書道ワークショップ」を開催。7月に2回目の日本語スピーチコンテストを開催し日本語教室の受講生7名が発表。そのうちの2名が徳島県日本語弁論大会に出場。8月に新ALT歓迎会、9月に学島小学校でインドネシア出身の講師を招いて国際理解授業、10月に日本語教室で浴衣・着物着付け体験会を開催。また、JICAとTOPIA主催の「外国人支援者向け研修会」でYIAの日本語教室が演題となり細谷と萩森が講演。11月～12月にはコロナ感染者数が少なくなり、国際交流バスツアー、国際理解講座「外国人実習生と日本語教室」、日本語教室のクリスマス会を開催できました。2023年1月に3年ぶりに「もちつき大会」を開催。このように、YIAでは地域に住む外交人と交流し、外国の文化などを知り、お互いにちがいを認め合い、対等な関係で共に生活することを大切に考えています。今後も、行政と国際交流協会などの団体、外国人を雇用する企業および市民との役割分担と連携しながら交流活動を進めたいと思います。

吉野川市の外国人登録数(2023年1月31日現在) : 中国117人、ベトナム98人、インドネシア62人、フィリピン48人、ミャンマー14人、米国12人、パキスタン11人、カンボジア11人、韓国8人、英国4人、カナダ4人、タイ4人、インド4人、ネパール3人、ハンガリー2人、スリランカ2人、台湾、ブラジル、ドイツ、モンゴル、ニュージーランド、バンラディッシュ、ルーマニア、ロシア、スペイン、ウクライナ各1人 26か国 合計414人

《特集》 設立30周年を迎えて

《Special Topic》 Celebrating the 30th Anniversary of YIA

萩森 健治・瀬尾 規子
Hagimori Kenji Seo Noriko

◆YIAの日本語教室が「とくしまユニバーサルデザインによるまちづくり賞」を受賞

萩森 健治

日本語教室の活動が、徳島県のユニバーサルデザインによるまちづくりの推進に顕著な功績があると認められ、標記の賞を受賞しました。本表彰は、「街づくり」(施設の整備)、「ものづくり」(製品の製造)、「意識づくり」(啓発活動)の3部門を対象に顕著な功績があった個人または団体を表彰するものです。日本語教室の活動は、「意識づくり」部門において受賞しました。3月11日に徳島県庁で表彰式が行われ、会長の萩森が表彰状を受け取りました。

日本語教室は開校してから今年30周年。ボランティア講師の皆さんが、多くの受講生に寄り添って日本語指導に取り組むとともに、バスツアー、阿波踊り、浴衣・着物着付け体験会などを通じて交流を続けてきました。この成果が認められたと思います。今後も教室の継続発展に向けて楽しみながらがんばりましょう。



表彰式 酒池由幸徳島県副知事(右)と萩森会長(左)

◆『吉野川市長との対談』

萩森 健治

吉野川市の広報誌では、「市長としゃべらんで」と題して市長と吉野川市に縁のある人や団体代表との対談が掲載されています。国際交流協会から同企画に応募したところ原井市長との対談が実現しました。

対談は3月23日10時から市長の応接室で行われました。お互いに挨拶を交わした後、国際交流協会や日本語教室の活動について説明し、市長から質問やご意見をいただきました。終始和やかな雰囲気、予定の1時間を越えて対談しました。おもな話題は、YIAに入会した契機、YIAの活動内容、活動についての思い、今後取り組んで行きたいこと、交流活動の広報、外国人のこともっと知ってもらうためには、今後のまちづくりへの提案などでした。

対談の様子は、吉野川市の広報誌「広報よしのがわ」2022年6月号に掲載されました。



対談に先立ち、3月13日(日)に市長が日本語教室を視察され受講生や講師らと意見交換されました。

鴨島教室からは受講生14人と講師3人、山川教室からは受講生8人と講師3人が参加しました。原井市長の挨拶、受講生の自己紹介のあと各グループに分かれて近況報告、最後に上位出席者5名の表彰状を市長から授与していただきました。



◆吉野川市国際交流協会30年の歩み・パネル展 瀬尾 規子

設立30周年を迎え「吉野川市国際交流協会30年の歩み・パネル展」を7月28日から8月3日まで、吉野川市文化研修センターのロビーで開催しました。

2004年に「多文化共生フェスティバル」で展示したパネルや日本語教室や阿波踊り、国際理解講座、講演会など活動を紹介する写真のほか、機関誌(第1号～第18号)や鴨島町国際交流協会時代の懐かしい写真も展示しました。会場では、1995年に発行した「ふるさと国際倶楽部」、2004年に発行した「ながれ」、機関誌、最新版のYIAのリーフレットを配布しました。また、日本語講師の村上瑛一さんが日本語教室20年の歩みを記録した書籍「日本語教室の窓から世界が見える」も展示しました。

国際交流協会は、市民が主体となった市の国際化のために、様々な事業を行ってきました。特に、在住外国人のための日本語教室は30年の歴史があり、県内でも屈指の活動です。このたびの企画展は、吉野川市民のみならず、県民にも吉野川市国際交流協会の活動を知っていただく、よい機会となりました。



〈日本語教室〉 Japanese classes

日本語教室の活動紹介

Introduction of Japanese language classes

講師 萩森 健治・細谷 裕重
Hagimori Kenji Hosotani Hiroshige

〈鴨島日本語教室の紹介〉

講師 萩森 健治

鴨島教室では、今年度もコロナの影響で不自由な環境下ながら対面で授業を行いました。受講生の国籍は昨年より1か国増え、ベトナム、中国、ミャンマー、インドネシア、タイ、モンゴル、フィリピン、アフガニスタンの8か国でした。ただ、平均出席者数は5.2人と少ない状況でした。これまで多く来校していたベトナム出身の受講生が、実習期間を終えて帰国したり特定技能に移行して他県に移動したりしたことが原因です。実習生の出席が少なくなった半面、フィリピン出身の主婦や青年、定住するアフガニスタンの子女、日本人と結婚したベトナム出身の主婦の方々の出席回数が増え、日常生活のための会話指導を行いました。さらに、日本語能力試験や特定技能の資格取得のための授業、リモートでの個別指導も行うなど多彩な授業が求められました。また、大学の先生や映画監督の視察、講師希望者の指導体験参加など外部から注目された1年でした。



大学の先生と映画監督の視察会 (2022.9.25)

〈山川日本語教室の紹介〉

講師 細谷 裕重

山川教室は、毎週日曜日の午前中、山川公民館で日本語レッスンをしています。私たち山川教室の1年の活動を振り返ってみます。

4月には「お正月遊び」をしました。本当は1月にする予定でしたが、コロナで延期になっていたものです。書初め・コマ回し・羽子板で遊んで、大いに盛り上がりました。

6月には「俳句の勉強」をしました。「夏」を季語にして…

・マンゴーアイス 心が晴れる 夢の時(ナジラさん)
・夏の夜 庭で焼いてる トウモロコシ (ナナさん)
若い人の感性は素晴らしいものがあると感心しました。

7月にはYIA主催のスピーチコンテストに参加しました。山川教室から5名が参加。学習者と先生と一緒にスピーチの原稿づくりしました。そして本番での堂々とした発表は素晴らしかったです。

1月からオカリナで童謡「きらきら星」の練習をはじめました。そして2月にYIA主催の多文化共生交流会で、オカリナ演奏にあわせてインドネシア語・中国語・日本語で「きらきら星」を合唱しました。

私たちは、日本語教室を単なる「外国人の日本語学習」の場ではなく「地域住民と外国人の交流」の場にしたいと考えています。国際交流に興味がある方！一緒に活動しませんか！

〈浴衣着物着付け体験〉

安部 正美

10月2日に浴衣着物着付け体験を、文化研修センターで実施いたしました。今回も小川和美さんのご厚意により打掛14枚、かつら2個、羽織袴3着と美しい衣装をお借りでき豪華な着付け体験会となりました。当日は外国人の方が38名集まり、萩森会長がくじ引きを用意して1番の人から順に自分の好みの浴衣を選び、参加した協会の会員全員で着付けをお手伝いしました。浴衣の上に打掛をはおり皆さん綺麗なお嫁さんになりました。スマホで互いに写真を撮りあい、すごく盛り上がりました。

アトラクションとして(つながり支援ピアサポートとくしま)の平岡香織さんのお琴の演奏があり、綺麗なお琴の音色に耳を傾けて、演奏後は興味津々でお琴に触れさせて頂きました。次に渡部真弓さんが羽織袴姿で日舞を披露して下さいました。皆さんは初めての体験に大喜びされておりました。沢山の笑顔があふれた会場でした。

笑顔は万国共通ですね。皆さんありがとうございます。



地域国際交流 Regional International Exchange Activities

◆学島小学校でインドネシアの勉強

萩森 健治

9月29日(木)、学島小学校にインドネシアの二人をお招きし、交流体験学習を行いました。小学校では3年生19人が迎えてくれました。講師は、川島町に住むインドネシアのアリさん、ワフェさんで二人とも健祥会の介護施設で介護士として働いています。お話はワフェさんが担当し、アリさんは持参したパパイアの葉、



ワフェさん(左)とアリさん(右)

キャッサバ、冷凍ドリアン、リュウガンの実を見せながら解説しました。

インドネシアは、面積が日本の5倍で1万以上の島々から構成され、人口は日本の2倍

で約300の民族から構成され、それぞれ言語が異なること。また、トラ、オランウータン、コモドドラゴン、イノシシ、サイなどや絶滅危惧の野鳥などが多くいるそうです。児童からは、好きな食べ物は？ インドネシア料理の店が徳島にありますか？ 女性は頭に何かかぶっていますが何ですか？ なぜかぶっているのですか？ などたくさん質問がありました。最後に、勇気ある上岡先生や児童らがドリ안의試食に挑戦。思ったほど臭くなく、甘みが強くておいしかったとのこと。

このような異文化体験を通じて、国際的な意識がはぐくまれることが期待されます。



恐々ドリアンに近づく児童

国際理解講座「外国人実習生と日本語教室について」

大塚 貴司

International Understanding Lecture "Foreign Trainees and Japanese Language Class"

Otsuka Takashi

2月17日に国際理解講座に参加させていただきました。外国人技能実習生、日本語教室についての講演でした。私の会社も技能実習生がいるので、特に外国人技能実習生に対するパワハラ、セクハラ、妊娠したら解雇帰国です。講演を聞いていると、送り出し機関、受け入れ団体、受け入れ企業が原因ではないかと思いました。今の日本(徳島県)は、高齢化社会、人材不足もあり、技能実習生、特定技能生の協力がなければ、経営が成り立たない企業もあります。コロナで実習生の数も少なくなってきましたが、今はだいぶ増えつつあります。送り出し機関、受け入れ団体、受け入れ企業の改善が必要ではないかと思えます。それと日本で働くに

はコミュニケーションを取るために日本語は必要です。簡単な会話、レベルの高い日本語能力試験といろいろな受講生がいます。勉強だけでなく、日頃の息抜きでもいいので来て会話したり、困った事があれば何でもいいので日本語教室の講師に相談して下さい。最後に、外国人技能実習生に選んでもらえる徳島県、吉野川市になればなと思っています。



もちつき大会

Rice cake pounding Party

新年におもちをつくのは、開運、健康、繁栄を祈る日本の風習です。1月22日の「もちつき大会」に、大人から子供まで30~40名が参加しました。みんなも私も、ご飯が炊き上がるのを熱心に待ちました。それからエプロンをつけて、大人は大きな「きね」を持ち、私は子供用の小さな「きね」で「もちつき」をしました。おもちは、ねばねばした甘いお米から作られます。お米を一晩水に浸し蒸す。その後 エプロンを着た人が「うす」にご飯を移し、4人でリズムカルに連携しながら「もちつき」をします。もちをつくのは おもしろい。そして、手のひらで丸いケーキのように成形

チャン・ティ・トゥエト・チン

Tran・Thi・Tuyet・Chinn

します。柔らかく魅力的なボールです。「もちつき」は少し疲れましたが、「もちつき」を体験できて楽しかった。私たちが参加できるように準備してくれた先生や人々に感謝します。そして、おみやげにうれしい「おもち」を家に持ち帰ることもできました。

